

令和元年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 教養教育院 特任講師
氏 名 福田 知子

活動テーマ	三重大学平倉演習林で過去に採集された昆虫標本の市民によるカタログ化
実施期間	平成31年 4月 1日 ~ 令和 2年 3月31日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>昨年度は採択2年目であり、参加者を増やすため、添付のチラシを作成して博物館内や大学の授業などで配布したところ、新たに延べ8名が参加した。活動の場となる三重県総合博物館において、月1,2回のペースで、1980年代の採集品から順に標本化を行い、標本として半永久的保管が可能な形にしてから同定作業に入る、という方針で活動を進めた。採集品は灯火に集まる昆虫を採集しているため、ガや小さい甲虫が多く、中には、1-2mmサイズの昆虫50~100個体が1つの葉包紙に包まれていることもあるため、すべての標本化には相当な時間がかかりそうである。しかし、昨年秋ごろから市民・学生の参加により、順次標本化が進められ、これまでに約6,000個体の標本化が完了している。</p> <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与, 広がり）</p> <p>三重県総合博物館では毎月、市民による昆虫調査が行われているが、この調査の参加者を中心に本活動への参加者が広がっている。この活動に関心を持つ人が増えることで、博物館を中心とした市民活動が盛んになることが期待される。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況</p> <p>進捗状況については申請者が毎月三重県総合博物館を訪問して活動状況を把握するとともに、共同研究者と具体的な進め方について随時話し合いを行っている。</p> <p>(4) 大学の教育・研究成果のかかわり</p> <p>本プロジェクトに参加することで、初めて昆虫標本を作製する学生もおり、本活動での昆虫の標本作成を通じて、生物多様性情報をどのように作成・整理するかについて、基礎的な知識・考え方に触れ、実践することができるようになると考えられる。今後、標本化の一段落した分類群から同定を進める予定であるが、その過程で新たな発見がある可能性</p>

がある。また、1980年代からの標本を整理することで、現在の平倉演習林の昆虫相の比較という観点からも研究成果が期待される。

(5) イベント等開催実績 (名称, 実施場所, 参加人数等)

1) 2019年3月2日から4月5日まで、三重県総合博物館のミニ企画展として本活動を紹介した。活動の内容の説明以外に、活動風景の写真や、成果としての標本が展示された (本報告書3枚目の写真参照)。

2) 2019年9月1日から5日まで、京都市で行われた国際博物館協会 (ICOM) https://en.wikipedia.org/wiki/International_Council_of_Museums の京都大会 <https://icom-kyoto-2019.org/jp/> のサテライトシンポジウムにおいて、以下の題名でポスター発表を行った。

Insect pinning project in collaboration with Museum and University
(大学と連携した博物館の昆虫標本整理の一例)

発表者: 大島康宏、森田奈菜、福田 知子

シンポジウムでは博物館関係者と、標本の在り方、標本化の進め方などについて議論を行った。

なお、本ポスター発表は標本化における新たな提案として博物館関係者の間でかなり話題となり、本取り組みについて、別の機会にも発表してほしいという依頼があった。

(6) これまでの取り組みによって得られた具体的な成果について

現在までの所、市民・学生の協力を得て、約6,000個体の標本化が完了している。参加者の中には、初めて標本を作る人も多く、標本作成に実際に触れる機会として本プロジェクトが果たしている役割は大きいと考えられる。今後、標本化が終わった分類群から同定作業に入る予定である。

* 活動内容に関する写真を添付

- 1) 活動の様子 (2枚)
- 2) 博物館での展示の様子 (2019年3月2日~4月5日)
- 3) 国際博物館ポスター (別添)
- 4) チラシ (別添)



採集品の箱を開けたところ.



標本化の作業の様子

たいがく れんけい ごんちゅうしりょう ひょうほんか
大学と連携！昆虫資料、標本化プロジェクト

「三重大学平倉演習林夜間昆虫調査資料」



三重大学平倉演習林夜間昆虫調査資料 三重大学平倉演習林夜間昆虫調査資料

三重大学生物資源学部附属施設演習林（通称：平倉演習林）の1966年から1986年までの20年かけて得られた昆虫資料。当時演習林に勤務されていた島地岩根助教が、夜間、演習林の宿舎に飛来した昆虫を収集していた膨大な資料群。残念ながら標本されていない状態で蓄積されており、活用するためには標本化が必要である。今年度、同大学の福田知子講師の協力により標本化が始まった。標本になっていない資料が、標本へと整理されている段階である。展示期間中にも整理作業は進める予定で、空の標本箱が次第埋まっていく様子をご覧いただきたい。

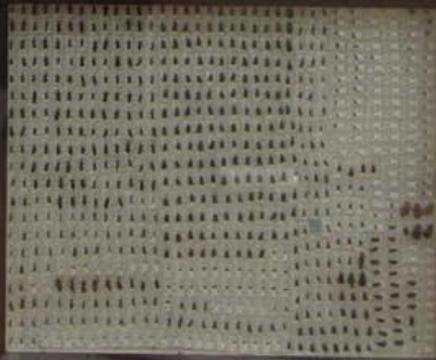


この資料から何がみえてくる？

標本になっていないが、重要かつ基本的な自然史情報が明確な資料群。現在、県民や学生の力も借りて標本化が進んでいるが、まだまだ膨大な時間と労力が必要。整理されれば、生物目録やレッドデータリストの作成に役立つだけでなく、収集されてきた20年間の環境変化を探ることや、再調査によって現在の環境との比較も可能になる。



標本化作業の様子



Before



After

三重県総合博物館のミニ企画展における本活動の紹介